

表題 県指定民俗文化財勝山左義長

大項目 準備

中項目	数	小項目	数
絵行燈・短冊作り	2	芳野区の絵行燈作り	4 5
		短冊作り	5 1
準備全般（幟旗含む）	1	準備全般（幟旗含む）	8 0
櫓組立	2	上郡区櫓組立	159
		伝統を守る櫓組立	8 0

勝山左義長まつり

中項目	数	小項目	数
各種催し	2	コンクール	4 1
		作り物・絵行燈	5 7
一番太鼓	1	一番太鼓	1 5
どんど焼	1	どんど焼	105
2019年勝山左義長見て歩き		2019年勝山左義長見て歩き	133
各区の左義長	13	立川区	2 5
		上郡区	152
		下袋田区	138
		上後区	8 7
		中後区	8 8
		下後区	1 6
		上長淵区	236
		下長淵区	115
		沢区	9 0
		芳野区	105
		元町2丁目	126

勝山左義長解題

勝山左義長が史料に見られるのは延享4年（1747）である、その文言からはそれ以前から左義長が行われていたことがうかがえる。50年近く領主不在の勝山三町にとって左義長は町民の紐帯としての役割を果たしていたものと思われ、それは勝山町が城下町として出発する元禄4年（1691）以前から続けられてきた。

当初はあくまでもドンド焼として始まったが18世紀中期になり、三町が相次ぐ火災に見

舞われる中で鎮火祭としての色彩が濃くなる。それと同時に祭礼的要素からおまつりとしての娯楽的要素が加わり、勝山左義長独特の様相が徐々に見られるようになる。櫓が街路に建てられその上で太鼓をたたき、また能・歌舞伎の演目が素人役者によって演じられた。また三色の短冊が町中に吊るされご神体には包みを吊るし、各町では競って押し絵が製作された。さらに後には干支に因む作り物も展示されるようになる。歴代藩主が俳諧の嗜みをもっていたこともあり世の中を風刺した雑排が絵行燈として飾られた。これらは勝山左義長独自のもので、左義長まつりとして町民自身が楽しむ最も華やかなまつりとして定着していった。

左義長行事は当初旧暦1月13・14日に行われてきたが、現在は2月の第3土曜・日曜日に県内外から多くの観光客を集め開かれる。ファイナーレは九頭龍河畔で行われるドンド焼でこの2日間で10万人以上が訪れ、奥越に春を呼ぶとされる左義長が終わる。現在は県の民族指定文化財となっているが将来は国指定を目指している。